

2020 年 WHO-FIC ネットワーク年次会議（ICF 関連）の報告

開催期間：2020（令和2）年10月19日（月）～23日（金）

なお、CSAC（分類・統計諮問委員会）は20日（火）、FDRG（生活機能分類グループ）は19日（月）にそれぞれ開催

会 場：オンライン開催

参 加 者：WHO、各 WHO 国際統計分類協力センター、各国政府厚生・統計関係部局、NGO、オブザーバー等

1. 主な議論

(1) CSAC（分類・統計諮問委員会）＜机上配付資料参照＞

12 項目の改正提案について、事前の投票で2項目の採択、3項目の否決及び2項目の保留（継続審議）が決定され、以下の3項目を議論、残り2項目は審議持ち越しとなった。

ID357：b810「皮膚の保護機能」について、impairment（機能障害）の記載を Inclusion（含まれるもの）のディスクリプションから削除して、Remark（脚注）として記載する提案が採択された。

ID426：e110「個人消費用の製品や物質」における ingestion の記述について、“摂取する”というニュアンスとして consumption に修正された。あわせて、Drugs が Medications に修正された。

ID427：分類名（タイトル）に動名詞を使用する修正が採択された。

例：d110-129 Purposeful sensory experiences

→ Having purposeful sensory experiences

(2) FDRG（生活機能分類グループ）

① 共同議長選挙

次期共同議長に Thomas Maribo（デンマーク）、Andrea Martinuzzi（イタリア）が選出された。

② WHO-FIC update

ICD-11 と共通のシステムを使用して Proposal から翻訳までをプラットフォーム上で行うようにすることについての議論があった。プラットフォームでは

inclusion/exclusion term も入力や検索を可能とする予定。

③ ICF Use Case

Finland, Spain, Mexico, Netherland, South Africa, USA の取り組みが紹介され、法律上の位置づけの有無等が紹介された。また、資格認定 (eligibility assessment) に利用している国として WHODAS2.0 を使用している台湾とセネガルの事例が紹介された。

④ ICF update and ICF 2020

CSAC での投票結果を報告。アップデートの主な内容としては以下のとおりである。

ア ICF-CY の項目を ICF 本体に統合

イ 項目名を動名詞化 例：play→playing

ウ ICF は生活機能評価の指標であることから、Impairment (機能障害) の例示を削除

⑤ WHODAS 2.0 training

2021 年に WHO Academy が立ち上げられ、ICD-11 についてのトレーニングが行われる予定。また、Functioning についても取り扱われる予定であり、FDRG では「どのレベルまで学習すべきか」について意見を求めたいとのことであった。

2. 今後の会議日程

- 次回は、2021 年 10 月 18 日から 23 日を予定